

新国立劇場開場20周年記念公演

# 消えていくなら朝

作 蓬莱竜太 演出 宮田慶子



鈴木浩介



山中 崇



高野志穂



吉野実紗



梅沢昌代



高橋長英

2018/7/12(木)ー7/29(日)小劇場 一般前売開始 2018/5/12(土)

時代をつかむ劇作家・蓬莱竜太と芸術監督・宮田慶子がタッグを組み、  
「現在」を描き出す書き下ろし作品！

芸術監督就任より、2期8年間。新国立劇場の芸術監督として、流行に惑わされずに演劇的な「太い幹」とつながる作品を選んできた宮田慶子が、その最終作品に、と熱望したのは、時代をつかむアンテナアイコン、と絶大な信用を寄せる劇作家・蓬莱竜太。とある家族を通して、仕事や日常生活というそれぞれの人生と、家族として断ち切れない絆の中で、生きていく幸せを問う渾身の新作です。どうぞご期待ください！

【チケット好評発売中 ☞ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当

TEL: 03-5352-5736



新国立劇場

<http://www.nmtt.jac.go.jp>

## ◎あらすじ

家族と疎遠の作家である定男は、五年ぶりに帰省する。作家として成功をおさめている定男であったが、誰もその話に触れようとしない。むしろその話を避けている。家族は定男の仕事に良い印象を持っていないのだ。定男は切り出す。

「……今度の新作は、この家族をありのままに描いてみようと思うんだ」

家族とは、仕事とは、表現とは、人生とは、愛とは、幸福とは、親とは、子とは、様々な議論の火ぶたが切って落とされた。本音をぶつけあった先、その家族に何が起こるのか。

何が残るのか。

## ◎作 蓬萊竜太からのメッセージ

新国立で新作を書かせてもらえるのは嬉しい。そして新作というものは怖い。数ある名作からチョイスして再演することとは根本的に作業が違う。劇作は勿論、演出、役者、スタッフの演劇作業が違う。まだ誰にも見せたことのないものを創る。まだ誰も演じたことのない役を演じる。宮田さんが芸術監督最後の仕事として「新作を創る」ことを選ばれたことは男前なことだと思う。やはり演劇は創らなければ。期待に応えたい。色んな意味で今からドキドキしています。

## ◎演出 宮田慶子からのメッセージ

8年間の任期を締めくくるにあたって、是非とも「日本の戯曲」を、そして是非とも同時代の劇作家の新作書き下ろしを、ラインナップとして企画したいと思った。そして、もちろん自分自身で演出に当たりたいと考えた。現代の空気を呼吸している・・・歪みのない視点を持っている・・・人の体温を知っている・・・創造に誠実で謙虚で、劇作の腕力がある・・・

戯曲を蓬萊竜太氏にお願いする事にした。

蓬萊氏は、新国立劇場には『まほろば』(2008・2012)、『エネミイ』(2010)の作、そして『ブレス・オブ・ライフ』(2014)の演出としてたびたび登場して来た。

実は私自身は、外部のプロデュース公演で、劇作家と演出家として3度、コンビを組んでいる。その確かな劇作の技術とセンスに心躍り、刺激的な作業を共にさせて頂き、深い信頼を寄せている。演劇が世の中を映し出す鏡であるとしたならば、今、私たちは、何を考え、何を求め、何に向かおうとしているのか・・・それを率直に、そして演劇的な策略に乗せて、描いてみたいと思う。

ゆっくりと、足下を見つめ直すような、舞台作りになると思う。

## ◎スタッフプロフィール

### 蓬萊竜太 (HORAI Ryuta)

1976年生れ、兵庫県出身。99年、劇団「モダンスイマーズ」の旗揚げに参加。以降、すべての作品の作・演出を務める。主な作品に『デンキ島』三部作、『夜光ホテル』『死ンデ、イル』『悲しみよ、消えないでくれ』『嗚呼いま、だから愛』など。劇団外にも、チーム申『時には父のない子のように』、三田村組『イヌよさらば』『男の一生』、アル☆カンパニー『罪』、パルコ劇場『ハンドダウンキッチン』『正しい教室』『星回帰線』などを作・演出。戯曲として、こまつ座&ホリプロ『木の上の軍隊』、パルコ『母と惑星について、および自転する女たちの記録』、WOWOW『パレード』、映画『ピンクとグレー』、テレビドラマ『コールドケース～真実の扉～』の脚本、『ガチ☆ボーイ』原作など、多岐にわたり活躍中。新国立劇場では2008年『まほろば』(第53回岸田國土戯曲賞受賞)、10年『エネミー』を執筆、14年『プレス・オブ・ライフ～女の肖像～』を演出。

### 宮田慶子 (MIYATA Keiko)

1980年、劇団青年座(文芸部)に入団。83年青年座スタジオ公演『ひといきといき』の作・演出でデビュー。翻訳劇、近代古典、ストレートプレイ、ミュージカル、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。公益社団法人日本劇団協議会常務理事、日本演出者協会副理事長。主な受賞歴に、94年第29回紀伊国屋演劇賞個人賞(青年座『MOTHER』)、97年第5回読売演劇大賞優秀演出家賞(青年座『フユヒコ』)、98年芸術選奨文部大臣新人賞(新国立劇場『ディア・ライアー』)、2001年第43回毎日芸術賞千田是也賞、第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞(青年座『赤シャツ』『悔しい女』、松竹『サラ』)など。上記以外の主な演出作品に、青年座『ブンナよ、木からおりてこい』『妻と社長と丸ちゃん』『をんな善哉』『砂塵のニケ』、松竹『愛は謎の変奏曲』『恋の三重奏』『ガブリエル・シャネル』、ホリプロ『ノイズオフ』『エレファントマン』『ペテン師と詐欺師』、パルコ『ふたたびの恋』『LOVE30』など。新国立劇場では上記『ディア・ライアー』のほか、『かくて新年は』『美女で野獣』『屋上庭園』を演出。芸術監督就任後は2010/2011シーズン『ヘッダ・ガーブレル』『わが町』『おどくみ』、2011/2012 シーズン『朱雀家の滅亡』『負傷者16人—SIXTEEN WOUNDED—』、2012/2013 シーズン『るつぼ』『長い墓標の列』『つく、きえる』、2013/2014 シーズン『ピグマリオン』『永遠の一瞬— Time Stands Still—』、2014/2015 シーズン『三文オペラ』『海の夫人』。2015/2016シーズン『パッション』『月・こうこう、風・そうそう』、2016/2017シーズン『君が人生の時』、2017/2018シーズン『プライムたちの夜』。また、オペラ部門では『沈黙』(12・15年)を演出。16年4月より新国立劇場演劇研修所所長。

## ◎出演者プロフィール

### 鈴木浩介 (SUZUKI Kosuke)

福岡県出身。劇団青年座を経て、舞台・映画・テレビに幅広く活躍。2007年にテレビドラマ『LIAR GAME』で注目を集める。主なテレビドラマ出演作に『ドクターX～外科医・大門未知子～』シリーズ、『刑事7人』シリーズ、『緊急取調室』シリーズ、『昼顔』『遺産争族』『最後のレストラン』『人は見た目が100パーセント』『愛してたって、秘密はある。』連続ドラマW 東野圭吾『片想い』『崖っぷちホテル』がある。舞台出演作に『ガラスの動物園』『叔母との旅』『今ひとたびの修羅』『効率の優先』『才原警部の終わらない明日』『美幸』『遊侠 沓掛時次郎』『密やかな結晶』がある。新国立劇場では、『タトゥー』に出演。

### 山中 崇 (YAMANAKA Takashi)

学生時代より演劇活動を始め、多くの舞台に出演。以降、映画、TVドラマ、CMなど幅広く活動。主な出演作は、映画『松ヶ根乱射事件』『ぐるりのこと』『わたし出すわ』『海炭市叙景』『The Flowers Of War/金陵十三釵』『ふがいない僕は空を見た』『希望の国』『アウトレイジビヨンド』『家路』『寄生獣』シリーズ、『恋人たち』『深夜食堂』『エヴェレスト-神々の山嶺-』『菊とギロチン』、ドラマ『NHK連続テレビ小説 ごちそうさん』『闇金ウシジマくん』『100万円の女たち』など、舞台では野田秀樹、飴屋法水、松本雄吉、鄭 義信ら、気鋭の演出家の作品に出演している。新国立劇場では『透明人間の蒸気』『やわらかい服を着て』『アルゴス坂の白い家』『温室』『アジア温泉』に出演。

### 高野志穂 (TAKANO Shiho)

幼少時から海外で過ごす。ロンドンでは全寮制のバレエスクールで4年間学び、15歳で帰国。2002年、NHK朝の連続テレビ小説『さくら』でヒロインデビュー。以降、映画『福耳』『日本の自転車泥棒』『私のスターはチキン男』『遠い国から来た男』『Music Of My Life』、ドラマ『赤ちゃんをさがせ』『義経』『大麦畑でつかまえて』『幸せのかたち』『疑惑』『ハニー・トラップ』『定年女子』『ハリネズミの願い』『シグナル 長期未解決事件捜査班』などに出演。主な舞台として、『さくら』『二十四の瞳』『THE面接』『ピグマリオン』『陽だまりの樹』『逢いたくて…』(朗読劇)、『砂の女』など。新国立劇場では『テンペスト』に出演している。

### 吉野実紗 (YOSHINO Misa)

文学座所属。2008年文学座本公演「口紅～rouge～」で初舞台。以降、劇団公演を中心に活動し力をつけ、近年は外部作品にも多数出演している。主な最近作に「エゲリア」「食いしん坊万歳！正岡子規青春協奏曲」(以上、文学座)、「トロイラスとクレシダ」(世田谷パブリック+文学座+ひょうご舞台芸術)、「ハーヴェイ」(俳優座劇場)、「近松心中物語」(SISカンパニー)など。

### 梅沢昌代 (UMEZAWA Masayo)

文学座出身。こまつ座『父と暮せば』で第2回読売演劇大賞優秀女優賞、新国立劇場『箱根強羅ホテル』で第40回紀伊國屋演劇賞個人賞、『ピアフ』で菊田一夫演劇賞を受賞。近年の主な作品として、『南部高速道路』『かもめ』『太鼓たたいて笛ふいて』『奇跡の人』『タンゴ・冬の終わりに』『ピアフ』『世界』『名人長二』『アダムス・ファミリー』『アンチゴーヌ』などがある。新国立劇場では、『紙屋町さくらホテル』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『涙の谷、銀河の丘』『箱根強羅ホテル』『母・肝っ玉とその子どもたち』『たとえば野に咲く花のように』『エネミー』『雨』『アジア温泉』に出演している。

### 高橋長英 (TAKAHASHI Choei)

俳優座養成所15期卒業。舞台で活躍後、68年『二人の恋人』で映画デビュー。以降、舞台・映画・テレビドラマにおいて幅広い演技力を活かして多彩に活躍。近年地元横浜市での朗読劇開催にも力を入れている。映画『マルサの女』『スーパーの女』ほかの伊丹十三監督作品や、『それでもボクはやってない』『山桜』『舞妓はレディ』などに出演。主な舞台として、『薮原検校』『高き彼物』『錦繡』『骨唄』『肝っ玉おっ母とその子どもたち』『かもめ来るころ』『金閣寺』など。2015年『スイートホーム』で第50回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。新国立劇場では『リア央』『涙の谷、銀河の丘』『花咲く港』『エネミー』に出演している。

## ◎公演概要

【タイトル】 消えていくなら朝 (Morning Disappearance)

### 【スタッフ】

作: 蓬萊竜太

演出: 宮田慶子

美術: 池田ともゆき 照明: 中川隆一 音響: 上田好生 衣裳: 高木阿友子 ヘアメイク: 川端富生

演出助手: 渡邊千穂 舞台監督: 澁谷壽久

芸術監督 宮田慶子

主催 新国立劇場

### 【キャスト】

鈴木浩介 山中 崇 高野志穂 吉野実紗 梅沢昌代 高橋長英

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2018年7月12日(木)～7月29日(日)

※マンスリープロジェクト

トークセッション「蓬萊竜太の劇世界」日時:7月16日(月・祝)17:00 /会場:小劇場

【料金】 料金: A席6,480円、B席3,240円、Z席1,620円(税込)

【チケット申し込み・お問い合わせ】※発売中

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntf/>

\* **Z席1,620円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。\* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。\* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。